

青少年育成指導

広報第180号

令和6(2024)年5月1日
発行 枚方市青少年育成指導員 連絡協議会

令和5年度の青少年育成指導員管外視察研修で兵庫県立 神出学園および人と防災未来センターを訪れました

令和6年3月8日(金)青少年育成指導委員の管外視察研修を実施しました。

研修先は兵庫県立神出(かんで)学園と、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターです。

8時45分集合9時出発で指導員28名と事務局の方2名の計30名で向かいました。

神出学園へはバスでおおよそ2時間到着。市川副校長らに迎えられ講義室で副校長から施設の説明をお聞きしました。そのあと2班に分かれて学園内を見学させていただきました。

神出学園は国内で唯一の公立の全寮制フリースクールで、小・中学校で不登校になったり、高校や大学に入学したけれども、人との付き合いがうまくいかずに引きこもり状態になったりした、兵庫県内の中学校卒業から23歳未満の人たちを受け入れ「自分探し」と「自分づくり」を支援する施設です。



学園での取り組みは授業と言わずプログラムと言い、先生も〇〇さんと呼んでいるそうです。月曜から木曜までの3泊4日で金曜から日曜は自宅に戻るという1週間のサイクルで行われています。プログラムも動物の飼育や料理教育、レクリエーションスポーツ等多様な取り組みをされています。もちろん進路学習もあり、元教師の指導で次のステップに進む生徒もおり、進路先も4年制の大学や専門学校などに入学しているようです。



2年制で、修了時には、学園の案内の表紙に書かれている「明日はもっと笑顔になれる」との笑顔で巣立っていくそうです。

神出学園は創立30周年を迎え、これまでの修了生は約800人で、神戸市の西区の広々とした丘陵地(甲子園球場4個分)にチロル風の建物で統一されており、敷地内には、本館、食堂、寮のほか農園や果樹園、

ピオトープの池、山羊やポニーなどと触れ合える牧草地などがありました。

12時頃に学園を後にして、昼食をはさみ、次の目的地である神戸市中央区の「人と防災未来センター」へと向かいました。



同センターは西館、東館の4階建ての施設で、1995年1月17日午前5時46分、淡路島北部を震源とするマグニチュード7.3の地震で6,400人を超える命が失われた経験と教訓から、一人ひとりに災害の正しい知識を身につけてもらうために必要な情報を発信する施設です。

4階は震災追体験フロア、3階は震災の記憶フロア、2階は防災・減災体験フロアで、映像を観たりパソコン等で体験、体感ができるようになっていました。2時間ほどの見学の後、帰路につききました。

バスは枚方市役所前に17時30分過ぎに到着し、解散となりました。管外視察研修に参加された皆様、お疲れさまでした。事務局の二人には大変お世話になり有難うございました。

津田校区 大林 康一

学校紹介 招提小学校 第十六代校長 横田 浩典

招提小学校は、昭和47年に殿山第二小学校より分離して創立されました。枚方市立の小学校では23番目の学校として開校し、昭和56年には平野小学校へ校区の一部を分離しました。学校目標である「ともに生きる子」の下、創立以来52年が経ち、現在、通常学級12学級・支援学級6学級があり、373名の児童が通っています。

校区には、由緒ある日置天神社があり、田園風景もまだまだ残されています。本校は、これら地域のみなさま方の協力を助けられながら、れんげ摘み・田植え・稲刈りなど、身近な自然や人々とのふれあいやゆくもりを大切にした体験学習を実践しています。

令和5年度は、「信頼される学校づくり」「授業改善の日常化」「チーム招提」「学び続ける教員」の4つを学校経営の柱として取り組んでまいりました。また、校内研究においては、長年にわたり国語科を追究してきており、その成果による他の教科・領域への広がり、子どもたちの確かな学びとなつて着実に育まれています。加えて、本校は、学校の働き方改革を推進する市の事業「笑顔の学校プロジェクト」に参加し、会議時間の削減やさまざまなペーパーレス化、時間外勤務時間の短縮など、学校の業務改善を推し進めてまいりました。

今後ともより一層、地域・保護者の方々と連携し、子どもたちの成長を支える「チーム招提」の力を

をますます発揮できるよう尽力いたします。子どもの笑顔を守るため、地域・保護者のみなさま方のご理解・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



1年生は地域の方から独楽回しなどの昔遊びを教わりました
記事依頼 招提校区 吉久 茂

北河内ブロック子ども会 スポーツ大会(ドッチビー)

令和5年度北河内ブロック子ども会スポーツ大会に出場する枚方市予選会が令和5年10月15日に渚市民体育館で開催されました。

近年、出場チームが減っていたため、市内の子ども会に出場を呼び掛けて予選会を開催することができました。

低学年3チームと高学年4チームに分かれ、優勝チームが北河内ブロック子ども会スポーツ大会に進出します。

87名の子どもたちが出場し、約40名の保護者が声援を送り対戦となりました。

(裏面に続く)



試合の様子



開会式

熱戦を勝ち抜いて優勝したのは、低学年がドリームフレイヤーズ、高学年がスーパータックカーズとなりました。

優勝した2チームは、令和5年11月12日に大東市立市民体育館で開催された北河内ブロック子ども会スポーツ大会に出場しました。

参加者数は交野市、大東市、枚方市を勝ち抜いた各チームの子ども達130名と応援の保護者40名。

大熱戦の結果、枚方市代表チームの成績は、低学年が2位、

高学年が3位となりました。優勝こそ逃しましたが、楽しんでもらえたことが良かったと思います。

枚方市単位の子ども会組織がなくなってしまうので、育成指導員連絡協議会が北河内ブロック子ども会組織を含めてサポートしていますが、地域の子ども達の小さな団体がなくなってしまうのが心配です。

**非認知能力を伸ばすために
〜令和5年度市民啓発事業〜**

令和5年12月10日(日)午前10時から枚方市総合文化芸術センター別館2階メセナホールにて枚方市青少年育成指導員連絡協議会令和5年度市民啓発事業記念講演として岡山大学 教育推進機構・准教授の中山芳一氏を講師に招き、「学力テストで測れない『非認知能力』を伸ばすために」をテーマに講演を行って頂きました。

この講演会はW E B 配信も行われ、令和5年12月11日(月)〜令和6年1月12日(金)の間で配信されました。

会場及びW E B 配信の総申込者は496名で会場参加者は38名、W E B 配信の第1部〜3部の平均視聴数は497回との結果となりました。

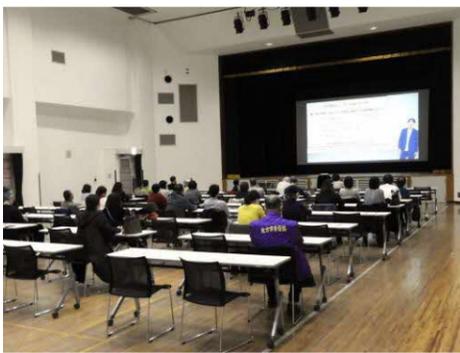
今回のテーマである「非認知能力」を中山准教授は以下の通り解説しています。

非認知能力とは、客観的な数

値にして測定できない能力の総称です。具体的に挙げるなら、意欲や楽観性、忍耐力や自制心、コミュニケーション力や共感性・・・など、個人の内面や特性を能力として捉えたものです。

一方の認知能力は、読字力・書字力・計算力、IQ(知能指数)・・・などのように、客観的な数値にして測定できます。

また、非認知能力育成に関する実践研究を通して「日本の教育をよりよくしたい」と考えているそつです。



会場の様子

今回の講演会にてアンケートを募集しましたが、回答者は58名と申込者の11%と低い回収率となりました。

アンケートの集計結果を見ると、設問1の回答者の年齢層は40代〜60代の中年層が中心となっていました。

設問2の講演会を知ったきっかけについては、広報ひらかたを見て知ったとの回答が一番多く得られました。

設問3の講演会に参加(視聴)された理由は、講演会のテーマ

に関心があった事に最も多くの回答を得られました。

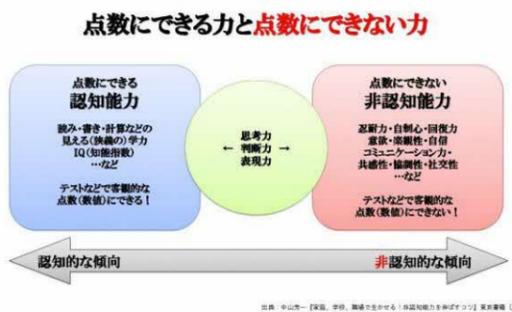
設問4の満足度調査は「満足」「やや満足」の回答が大半となっていました。

設問5の青少年に関する事でどんなテーマの講演に興味があるかの問いに対しては「子育て」「教育」「メンタルヘルス」「不登校・いじめ」の4項目がほぼ均等となっており、現状の課題が見えてくる結果となっています。

講演会形式については対面形式と動画配信が拮抗していましたが、気づき感想コメントとして会場での画像と音声にわかりづらい所が多々あったとの意見がありましたので、動画配信時に音質調整が必要との課題がみえました。

これからも様々な講演会を通じて子ども達の健やかな成長につなげていける様に取り組みを進めていければ良いと感じました。

山田校区 坂本 剛



家庭、学校、職場で生かせる! 自分と相手の非認知能力を伸ばすコツ より

雑感
蹉跎東校区
桑原 武志

正月から能登半島地震や羽田空港地上衝突事故がおき、万一の備えに考えることの多い年明けとなりました。

「令和6年能登半島地震」では長引く避難生活で子どもたちの心と体への影響が懸念されています。

慣れない避難生活や家族と離れて集団避難をしている子どもたちの心理的なストレスは計り知れません。

青少年の成長段階における関わり方として、「指導」という観点だけでなく、「支援」の観点も含めて多様な関わりをしていく必要があるといわれています。

昨年5月にコロナ感染症の位置づけが引き下げられたため、各校区において新しい日常を踏まえた取り組みがされており、子どもたちが安全に、そして笑顔になる企画や様々な人とつながる機会を持てる催しなどが行われました。

青少年が心身とも健やかに成長するためには、家庭や学校だけでなく、地域社会の役割も重要です。

今後も地域コミュニティと連携し、青少年健全育成事業にも取り組んでまいります。最後に被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

【編集後記】
今回の管外視察研修は、創立30周年を迎えた全寮制フリースクール兵庫県立「神出学園」。

不登校で小・中学校などに行けなかったけれども、自分の生き方や進路を見つけた意欲をもち、寮での共同生活を通して「自分探し」や「自分作り」にチャレンジ意欲旺盛の持ち主。

保護者へのサポートも厚く、「おやサボ神出の会」があり、保護者の支援も充実を図っているという。

この学園建設を提唱したのは、前兵庫県知事・井戸敏三氏と聞き、数多くの著書でも見られる。

「未来とつづく旅『神戸・兵庫』」を出版されている。視察研修を修了し、学園を後にしたとき全景が輝いていたことを思い出す。

我々も何か忘れていることに、そして、「元氣・友達・希望」に挑戦する意欲が有るや否や!

少し話は変わりますが、枚方市・交野市・寝屋川市で『平成寺子屋』という学習塾が話題。

第一の目標は、不登校の間の学習内容の欠落を補うこととして、先ず一歩ふみ出してみませんかという文字が心強い。

カウンセリング等は行わず、純粋に学習指導に専念。不登校の生徒には意味深い響きがあり、ホームページを覗くのもいいのかも知れない。

春日校区 放示 貞之